

ここに注目！  **空き店舗をさまざまな目的で活用することで、活動・交流の場を創出、商店街の活性化に繋げる。**

ポイント

「情感のあるまちづくり」をテーマに掲げ、時代を見通す次世代の商店街を目指している。商店街の役割を「消費者との交流の場」として位置づけ、空き店舗を活用した地域コミュニティの場を開設し、年間1万人以上の利用実績があり、買い物の休憩場所だけでなく、地域のサークル活動や交流の場として利用されている。

また、この取組を契機に、若手アーティスト9人が空き店舗を活動拠点として活用したり、食事処等の新規商業者が12件出店するなど、空き店舗の減少に成果を上げている。

[商店街概要及び取組の背景]

イベントによる来街者を買い物客に変えたい

竹田町商店街振興組合は、平成18年に「古町商店街振興組合」と「竹田市中心商店街振興組合」とが合併して現在に至っている。竹田市の中心部に位置し、城下町の歴史的なたたずまいを色濃く残す地区に存在し、これまでイベント事業も活発に実施しており、地域に愛される近隣型の商店街として親しまれている。

一方、3日間で10万を集める大々的なイベント等を開催してきたが、年間を通じた経済効果はなく、商店街の将来像(ビジョン)の策定や個店の魅力づくり、空き店舗対策等が大きな課題であった。

[取組の概要・効果]

Plan・Do

交流促進で歩いて楽しい城下町の商店街に

城下町地域に商店街コミュニティ施設がないため、空き店舗を活用した健康相談所・休憩所の機能を持った「清和館」と「尚栄会」を開設。さらには、地域住民の交流の場として利用される「よろうえ」の施設を整備したことで地域住民と商業者の垣根が取り払われた。

その結果、年間10,000人以上の利用実績を確保



毎年にぎわいを見せる七夕祭り

し、買い物の休憩場所だけでなく、地域のサークル活動・イベント等、交流の場として利用されている。この取組を契機に、空き店舗を活用したアート関係者9人の誘致や飲食店等も12件でき、空き店舗の減少を実現している。また、個店の魅力づくりにも力を入れており、歩いて楽しい、情感のある城下町を目指した商店街を確立している。

[効果の評価と改善策の実施等] Check・Action

若者の出店増加とさらなる交流促進の取組

清和館等のコミュニティ施設を商店街の中に開設したことで、地域のサークル活動・イベント等に多数の地域住民が参加し、商店街の活性化に貢献している。

また、最近は若手経営者でアートを取り入れたカフェギャラリーやパン工房、竹工芸等の作家が空き店舗に出店する例が多く、元気なまちづくりにつながっている。上記取組等により、空き店舗数で見ると、5年前には183店舗中31店あったものが、現在は142店舗中20店となっている。

行政でもこの動きに呼応しコミュニティホール施設、新図書館の建設や移住定住の推進によるアート関係者の招聘活動を始める。

[実施体制]

青年会、若手新規就業者、地権者などが連携

竹田町商店街では、次世代を担う7人ほどの青年会のメンバーが、定期的に勉強会を開いている。また、若手新規就業者との連携交流することで、結果として体力のある後継者が育成されている。

さらには、中心市街地活性化構想の策定やコミュニティ構想の策定にも中心的役割として取り組んでいる。かねてより空き店舗対策に苦慮していた中で、商店の地権者との話し合いの必要性に着目し、商店街の理事たちと地権者との考えのギャップを埋めるための協議を繰り返すことで地権者とともに商店街の活性化に取り組んでいる。その結果、空き店舗に入った若手経営者やアート関係者との交流や将来の商店街づくりについてもシンポジウムを開催する等の話し合いを行っている。

基本データ

所在地：大分県竹田市大字竹田町

会員数：122名

店舗数：122店舗

関連URL：<http://www.taketan.jp/spots/detail/469>



イルミネーション「竹ほたる」で演出



キーパーソン

竹田町商店街振興組合
理事長 都築 員守

地域で取り組む「希望の灯り竹ほたる」

商店が賑わう昭和の時代に最盛期であった七夕夜市。時代とともに活躍の場を失い眠っていたその七夕飾りの竹葉玉を一部再利用し、大分県立芸術文化短期大学の協力により平成24年に生まれたのが「竹ほたる」です。豊後竹田駅前稲葉川河畔をきれいに灯した「竹ほたる」の背景には、河川の清掃・美化作業をはじめ、蛍の育成や保護活動を通じて都会の方達との50年以上続く「友情の蛍送り」、また「竹楽」に代表される里山保全や竹活用運動を継承してきた市民ひとりひとりの存在がありました。

また、この年の7月に発生した豪雨災害で、竹田市をはじめ、近隣の日田市や中津市などが甚大な被害を受けたこと、前年の平成23年度に発生した東日本大震災で、竹田市の姉妹都市である仙台市をはじめとす

る東北の多くの地域が未曾有の災害に見舞われたことなどから、被災地へエールを送るため空き店舗を活用した「がんばろう館」をオープンしました。東北から商品を仕入れるにあたり、輸送コストや賞味期限など課題は多くありましたが、被災地がよりいっそう元気になるよう取り組んで参りました。

あいぜんどう 「愛染堂」を核にさらに人が訪れる商店街へ

また、このような成果に安住することなく、次なる手も考えています。実は、町の中心部にある八幡山の愛染堂(願成院)は、岡藩主中川家代々の祈祷所であり、竹田では最古の寺院です。内部には多くの仏像が鎮座しているだけにその“祈願力”は絶大で、これまで城下町の鎮守的役割を果たしてきましたが、最近では『パワースポット』として市民や観光客からも脚光を浴びるようになってきました。そこで、縁結びはもとより、商売繁盛・合格祈願・健康成就・家内安全等様々な祈願の為に、まちなかを訪れていただけるようにしたいと考えています。人々の願いと共に、竹田町商店街の発展が大いに期待されるところです。